

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈6月21日（金）放送分〉

テーマ「奄美群島12市町村の伝説・昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今年度は、毎月第3金曜日に、奄美の伝説や昔話などを紹介する「奄美群島12市町村」シリーズをお届けします。

第3回目は伊仙町の昔話「シモマチ ヤチャブロウ」です。

ある夫婦が結婚して7年間、子どもができなかったので、神々に願^{がんだ}立てしていたところ、子どもが生まれました。

男の子だったので、夫婦はお寺のお坊さんに名前をつけてくださいとお願いしました。お坊さんは、「シモマチ ヤチャブロウ とつけよ」と言いました。

この子は大変成長も早く、頭も良く、学校に行くようになったら、大変ケンカも強く、友だちをぶつこともありました。

夫婦は子どもを欲しがっていたのに、こんな子どもが生まれて、あまりいいものではなかったね、などと話していました。

ヤチャブロウは13才の時に病気にかかりました。最後には、「自分はもう死ぬが、小^こ刀^{がたな}一つ、馬のくつわ一つ、握^{にぎ}り飯^{めし}二つ、串^{くし}魚^{ざかな}二つを持たせてください。そして、七日後^{なのか}には墓から掘り出してください。」と言って死にました。

夫婦は、これは妙なことを言うものだとは思いましたが、本人の言うとおりのことはしてやらねばと、小刀一つ、馬のくつわ一つ、握り飯二つ、串魚二つを死んだヤチャブロウに持たせてあげました。

ヤチャブロウが死んで、地獄・極^{じごく ごくらく}楽にたどりつくと、猫が出てきました。ヤチャブロウは猫に握り飯一つと串魚一つを投げて食べさせました。次に犬もやってきたので、犬にも握り飯一つと串魚一つを投げて食べさせました。

その後ヤチャブロウは、地獄・極楽の王様の前に連れて行かれました。地獄・極楽の王様は、こいつは実に悪い奴だからと、猫を呼んで、「喰^くい殺せ」と言いつけましたが、猫はヤチャブロウの臭^{にお}いをかいだだけで喰わずに行ってしまいました。今度は犬を呼んで、「喰い殺せ」と言いましたが、犬も猫と同様、ヤチャブロウの臭いをかいだだけで喰わずに立ち去ってしまいました。今度は「馬を出して、馬に喰わせろ」と王様が言うので、使用人が馬を出してきました。その馬がヤチャブロウに大きな口を開けてきたので、ヤチャブロウは素早く馬の口にくつわをかませ、馬に飛び乗り、地獄・極楽の街^{まち}中^{じゅう}を乗り回し踏^ふみ散らしました。

地獄・極楽では、もうこんな奴をここに置いておくと大変だから早く追い帰してくれということになり、地獄・極楽の王様から、「お前のような奴は早く帰れ」という命令が出ました。ヤチャブロウは、「帰れと言っても私はすでに死んで葬^{そうしき}式もされているし、墓の上には墓^{はかいし}石がのせられているのに、どうして帰ることが出来ようか」と言いました。さらに「帰れと言えは帰りはするが、帰れという証明を書いて持たせてくれ」と言って書き物を要求しました。すると、王様は、書き物は無いからといってヤチャブロウの腕に印鑑^{いんかん}を押して元の世界に戻しました。

ヤチャブロウが地獄・極楽の門から出ようとしているとき、元の世界では、「今日は墓^{ぬし}の主であるヤチャブロウが戻ってくるから、『七日振りの七日旗^{はただお}倒し』をする」と言って親戚^{しんせき}たちが墓参りに来ていました。すると、墓の中からカンカン何かを打ち鳴らす音がしたので、親戚たちは墓を掘って中からヤチャブロウを出してあげました。

ヤチャブロウはその後、百歳も二百歳も長く生きました。ヤチャブロウは「自分はずっとこの家^いに居つくから、自分が死んだ時には床^{とこ}の間に祭^{まつ}ってくれ」と言いました。

その家では暑い6月の盛^{さか}りでも、毎日火鉢^{ひばち}を床の間に置いていました。やがてヤチャブロウが亡くなって、その家の床の間に祭られました。

翌日、家の人々が早く起きて床の間を見たところ、火鉢の炭のかたまりが、人形のようになっていました。それで、家の人はその炭のかたまりをご神^{しんたい}体として、神名^{しんめい}をシモマチヤチャブロウと言って、神社^{おが}を作^{おが}って拝^{おが}んだということです。

さて、みなさんは「死後の世界」について考えたことがありますか。

先ほどのお話では、地獄・極楽という死後の世界が登場しますが、主人公のヤチャブロウは、死後の世界でどんなことが自分を待ち受けているかを、事前に知っていたようですね。猫と犬は握り飯と串魚で手なづけ、馬はくつわをかませて乗りこなしてしまうところなど、知恵も度胸もある少年が、コミカルに描かれています。また、地獄・極楽の王様が、書き物は無いが印鑑を押してやるという場面も、よく考えると、面白い感じがします。

このお話のように、一度死んだ人間が、地獄などで大暴れして、また元の世界に帰されるという話は、昔話ではいくつか見られるようです。

奄美図書館には、このような面白い本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、みなさまのご来館を心よりお待ちしております。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。